

おお大勝利

平成 23 年度山東サッカー部報第 16 号 (9 月 8 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

Y1新東戦 勝点3を得て残留に大きく前進

9月4日(日)山形中央グラウンドにて、Y1第12節¹新庄東戦が行われました。新庄東は前節終了時点で7位、山東はその上の6位。下位2チームの7位8位が自動降格する²ので、6位7位の直接対決は裏天王山。山東と新東との勝ち点差は3で、直接対決に山東が敗れると勝ち点で並ばれてしまう。逆に山東が勝利すれば、残り3節で勝ち点差が6に開き、山東のY1残留にあと一步のところまで近づく。心配された台風の影響もほとんどなく、裏天王山を迎えるには好条件。前節東海戦、重たいピッチコンディションという条件も幸いしてか³、山東は出来過ぎのパフォーマンスで保護者・OB・顧問・対戦相手を驚かせている(結局は2-3で逆転負けしましたが)。この節で前回の出来がフロック⁴ではないことを証明したいところ。また、新東との一戦目(7月2日)は1-2で敗れており、その借りも返したい。

試合が始まると、一進一退ながら、やや新東ペースか。山東はイージーなミスが多く、自分たちで自分たちのリズムを崩している。新東は伝統のパスサッカーのスタイルで、強引なところはないものの虎視眈々とゴールを狙って来る印象。もっと中盤でシンプルにプレーしてボールを動かし、相手に的を絞らせない状況を作った上で、ゴールへと仕掛けて行きたいのだが、ファーストタッチ(トラップ)でのボールの置きどころが悪いために(またはワンタッチパスを選択しないために)ドリブルを選択させられ、苦し紛れのプレーでボールを奪われることが多い。また、短いパスが弱くなり相手に読まれて奪われるシーンや、パスにおいて味方の動きに合わせることばかりに集中していて相手が狙っていることに気付かずプレーしているシーンが目立つ。そんな中、山東ゴール前

¹ 新東戦を終えて、Y1は残り3節です。9月17日の鶴工戦(12:00~@日大G)、19日の山商戦(10:00~@山商G)、23日の山形中央戦(24日から変更になりました! 10:00~中央G)です。8チーム2回総当たりなので、全14節ですが、今年は勝ち点にカウントされないU16県国体チームとの対戦もあったため、新東戦を残り3節で11節と表すのではなく、12節と表しております。

² ただ、11月12日(土)にY1の1位のチームが秋田の県リーグ1位チームとのプリンスへの昇格決定戦に勝つと、Y1から1チームが減るため、Y1の7位のチームは残留いたします。

³ ピッチコンディションのおかげで、トラップミスやパスミスでボールを不用意に浮かせてしまういつものプレーが、自然と少なくすんだことが、前節のハイパフォーマンスの原因の一つと見えています。

⁴ 近年「まぐれ当たり」という意味で使用される言葉ですが、今回部報にこの言葉を掲載するにあたり、本校の英語科職員3名の協力を得てフロックを調べてみましたら、スペルはflockでもfrockでもなく、flukeでした。発音はフロックではないようで、フルークとのこと。

での相手のスローインに対して状況判断を過ったボランチが、相手をゴールに近づかせまいと焦っているうちにボールの上に倒れてしまい、そしてその後もボールを相手に渡すまいと倒れながらもがくうちに、複数回！ハンドをしているように見える（確かに見えました）。ペナルティエリアのなかだけに、即 PK になりそうなシーン。ですが・・・主審の判断はノーファール。触っていないと判断したのか⁵、故意に触れてはいないと判断したのか、わかりませんが、山東としては前々節城北戦（7月30日）に続く、PK回避のありがたい判定。ホッと胸をなでおろすのはこちらサイドで、当然新東ベンチはジャッジに「意見」している。前半の前半のそんな不穏な流れの中、FW ゴメが浮き球のパスを素晴らしいアウトサイドでの？トラップでボールを絶妙に前方に運び、意表を突かれ戻りの遅れた新東 DF を尻目に GK と 1 対 1 の状況を作り、冷静にゴールを割る。山東先制！ その後もピリッとしない前半をなんとか凌ぎ、ハーフタイム。

ハーフタイムではボランチを中心に叱咤。やはりボランチが試合を落ち着かせてくれないことには、ゲームが成り立たない。後半に入ると、やっとシンプルにボールを回す中からアタッキングサード（ピッチを三等分にした時の相手ゴールに近い部分）に侵入することができるようになり、しっかりとした山東の時間を作るようになる。ただ、点数が入らないことには・・・と不安な眼で試合を見続ける。すると、左の深い位置（相手ゴールに近い位置）で FK を得る。前半で退いたマンサクの代役としてヨシタカがキッカーとなりクロスを上げると、ややニアサイドに近いゴール中央付近でゴメがヘディングシュートで新東ゴールネットを揺らす。待望の追加点を入れ、2 - 0 となる。またもゴメ！！その後、相手 DF のボール回しをかつさらったゴメが冷静にゴールを決め、ハットトリック達成。東海戦と比べて出来が半分くらいのゴメでしたが、得点を決めるという FW の役割を考えたら、120 点の出来か。その後は、新東から怒涛の反撃を受けますが、守りに守って零封。

貴重な貴重な勝ち点 3 を得て、Y1 残留に向け大きな一歩を踏み出しました。ただ、試合内容は反省すべき点がとても多く、前節東海戦の出来はやはり・・・という気持ちになってしまいました。しかし、指導者の予想を裏切るくらい伸びることがあるのが、この世代の選手・チームの面白いところ。希望を失わず、次の戦いに備えたいと思います。

次節は、今週末の地区新人後となります（Y1 の日程は注 1 にてご確認ください）。地区新人の日程は別紙の通りとなります。合計 2 回勝てば県新人に進めますが、初戦で敗ればその時点で終わりとなります（初日、初戦勝ち二戦目に敗れると、二日目は第 5 ・ 第 6 代表決定戦に臨むこととなります）。一戦必勝！

応援よろしく申し上げます。

⁵ 本人に確認していませんが、もしあれでハンドしていなかったとしたら、相当強い体幹の力で、手に触れないようにしながら胸だけでボールを器用に扱っていたこととなります。